平成 24 年度第 1 回石狩市男女共同参画推進委員会

【日 時】 平成 24 年 7 月 31 (火) 18:00～20:00

【場 所】 市役所 2 階 201 会議室

【出席者】

役 職	委 員		職 員 (事務局)			
	氏 名	出欠	所 属	役職	氏 名	出欠
委員長	南 楨子	○	企画経済部長	部長	加藤 龍幸	○
副委員長	高田 良次	○	協働推進・市民の声を聴く課	課長	林 俊次	○
委 員	設楽 正敏	○	協働推進・市民の声を聴く課 広聴協働男女共同参画担当	主査	岩本 隆行	○
	荒川 よし子	○		主査	清水 千晴	○
	本間 貴士	○		主任	手島 衷	
	築田 純子	○				
	明松 真百美					
	亀岡 和子					
	草島 猛	○				
	工藤 美和子	○				
	袴田 律子					
	若林 厚一郎	○				

【傍聴者】 0 人

=====

【南委員長】

今年度第1回の石狩市男女共同参画推進委員会を開催します。本日欠席される方はいらっしゃいますか。

【事務局(清水)】

明松委員と亀岡委員と袴田委員です。

【南委員長】

ありがとうございます。あと今回は委員の交代があったのですね。校長会から推薦いただいた菊池委員が異動されたため、今年度は生振小学校の設楽校長に就任していただくことになりました。一言お願いします。

【設楽委員】

よろしく願いいたします。

【南委員長】

事務局も部長さんが交替しているということですので、お願いします。

【事務局(加藤部長)】

暑い中、皆様お疲れさます。今年の4月1日付で前職の市長政策室長から企画経済部長になり

ました。皆様、よろしくお願ひいたします。

【事務局(林課長)】

私からもご報告します。昨年1年間お世話になりました門井に代わりまして、本日は所要で欠席しておりますが、この4月から手島という者が就任しております。本日は欠席ということで申し訳ありませんが、交替について報告させていただきます。

【南委員長】

ではあらためまして、本日の予定ですが、最初に3つの案件について報告を受けます。まずは、昨年度第2回委員会開催後に実施された事業。次に、本日以降に実施予定の事業。そして、昨年度の第2次石狩市男女共同参画計画の進捗状況について報告を受けます。その後、前回の委員会同様、本年度の重点的に取り組む視点について、グループに分かれてご協議いただき、最後に各グループから報告を受けるといった流れです。8時を目処に終了したいと思いますので、円滑な協議を進めるためにご協力をお願いします。

それから、事務局から事前に送付された資料と、『第2次石狩市男女共同参画計画』の冊子はお持ちでしょうか。お持ちでない方は、事務局にお伝えください。

では議事に入ります。最初に、第1回の会議以降に開催された事業の報告及び今後の事業予定について、合わせて事務局はご説明をお願いします。

【事務局(清水)】

会議次第の2ページ目からになります。まず1つ目の重点的に取り組む視点として、男性の男女共同参画についての事業ですが、今年に入って2月に、認知症サポーター養成講座を行っています。男性の介護の場への参加を促す取り組みとして実施しました。本委員会の委員でもいらっしゃいます工藤委員がキャラバンメイトさんとして講師をしてくださいました。参加者は44名、うち男性17名、女性27名ということで、平成22年度に行った時は全18名中男性は4名しかいらっしゃいませんでしたので、今回は男性の参加が大変多かったかと思います。前回の委員会で、「男性に呼びかけたい時は、ご夫婦での参加を投げかけると良いのでは」というご意見をいただきましたので、広報いしかりや PR チラシに「男性や夫婦での参加、大歓迎」という言葉を入れました。結果、男性の参加が大変増えましたので、効果があったかと思います。

次の事業ですが、6月に入りまして男女共同参画週間パネル展を行いました。主なテーマとして、男性の男女共同参画を取り上げています。南委員長にはご来場いただきました。今回パネルとして掲示したものは、今年の3月から内閣府男女共同参画局がホームページに新設した「男性にとっての男女共同参画」の中で掲載している内容です。今回事前に送付しました資料の(2)「男性の性別役割分担意識に関する資料」がその内容です。

次に7月には、シニアプラザはまなす学園で男女共同参画連携講座を行いました。テーマは「男性が介護者になったとき」として、講師は北海道男性介護者のつどいの事務局長の小番一之さんにお願ひしました。参加者は68名、うち男性は16名でした。また一般参加者も募りましたが、参加のあった男性1名女性1名は本委員会委員の高田副委員長と亀岡委員です。

次に石狩市男女共同参画行政推進会議で決定された内容についてご報告しますが、お配りした

資料に訂正がありますのでお願いします。開催した日付が平成 24 年ではなく、23 年です。申し訳ございません。あらためまして、こちらの会議ですが、市長が会長で委員が部長職の庁内会議です。昨年の 11 月に行いまして、男性の男女共同参画を進めるにあたっての決定事項として、市役所内部におけるワーク・ライフ・バランスの推進が決定されています。

次に、2 つ目の重点的に取り組む視点である「女性に対するあらゆる暴力の根絶」についての事業について報告します。まず家庭生活／女性相談ですが、毎月 3 回行っており、これについては平成 23 年度の年間実績を報告します。相談員は例年通り北海道家庭生活カウンセラークラブ石狩地区にお願いしており、荒川委員にも活動いただいています。相談件数は記載のとおり増えており、また男性からの相談が 1 件ありました。今年度も既に 1 件男性からの相談を受けています。主な相談内容は離婚に向けた相談です。

次に協働推進・市民の声を聴く課が随時受付している女性相談です。相談件数は平成 22 年度と同じですが、括弧して「男性」と入れたのは、昨年度は男性からの相談が 1 件あったことを考慮しての記載です。主な相談内容は配偶者からの暴力です。また相談を受けた方のうちシェルターに避難された方が 1 名いらっしゃいました。

次に DV 相談ですが、昨年 11 月の「女性に対する暴力をなくす運動」期間に実施しており、相談者は 1 名です。

ここで実施事業の追加訂正をさせていただきます。今日お配りしましたが、デート DV 防止パンフレットが完成しましたので、改めてご報告いたします。昨年度第 2 回の委員会で皆様からいただいたご意見を反映しています。

続きまして、このパンフレットを題材にデート DV ゼミを昨年 12 月に藤女子大花川キャンパスで行いました。参加いただいた学生さんは 8 名です。

次に今年の 6 月になりまして、第 1 回デート DV 講座を開催いたしました。こちらも藤女子大花川キャンパスで、1 年生 77 名を対象に実施しております。講師は主催者である札幌人権擁護委員連合会の方で、アウェア認定のデート DV 防止プログラムファシリテーターの高橋裕美さんをお願いしました。高田副委員長は主催者として参加され、設楽委員も参加くださいました。

次に先ほど報告しましたデート DV 防止パンフレットの配布についてですが、平成 23 年度分の配布として、今年の 3 月に市内の 2 つの高校及び藤女子大学花川キャンパスに対し、いずれも全学年生徒及び全教員・事務職員への配布をお願いした他、保健室等への設置も依頼しました。また今年度分は既に、今申し上げた学校の全 1 年生及び新規配属教員・事務職員への配布の他、保健室等への追加設置を依頼しました。

最後に石狩市男女共同参画行政推進会議での決定事項ですが、市民と色々な接点を持つ中で、何か気付いたら担当課である市民の声を聴く課に伝えるなど、組織的な対応をとるといった決定がされました。

次に、3 つ目の重点的に取り組む視点である「社会における女性の活躍」ですが、男女共同参画行政推進会議において、審議会等委員への女性登用を促進することを決定しています。この決定に基づいて取り組みを進めているところですが、平成 22 年度末に比べ平成 23 年度末の数値は下

がってしまいましたが、この後ご報告します男女共同参画計画の進捗状況調査の結果集約時点である6月末現在では 30%にあがったところです。ここまですがこれまでに実施しました事業についての報告ですが、続けて今年度の事業予定もご報告します。

まず、1つ目の重点的に取り組む視点である「男性の男女共同参画」については、今年度も認知症サポーター養成講座を開催したいと考えています。そして、2つ目の重点的に取り組む視点である「女性に対するあらゆる暴力の根絶」ですが、「心に響かせるDV根絶パネル展」を開催します。こちらは関連のチラシを本日お配りしています。8月10日から9月7日まで約1カ月にわたりまして、市民図書館、花川南コミセン、市役所と市内3か所を巡回します。こちらのパネルは、東京都港区で活動するNPO法人が広告代理店と連携して作成、発表したものです。詳細についてはこの後のグループ協議の際に見ていただきます。他に、今年も例年どおり11月にDV防止パネル展を開催します。また、10月に藤女子大花川キャンパスで第2回デートDV講座を開催します。第1回は対象が1年生でしたが、この回は3年生です。また10月には子育てメッセが開催予定ですが、この事業対象が親であることから、本日お配りしたデートDV防止パンフレットの内容をパネルにして設置する予定です。いずれの事業も、開催が近づいたらご案内いたしますので是非参加ください。最後に、3つ目の重点的に取り組む視点である「社会における女性の活躍」については、先ほど申し上げました審議会等の女性委員の登用を進めるため、女性人材リストの作成作業を現在行っています。以上です。

【南委員長】

ありがとうございました。では報告された内容について、感想をお伺いしたいと思うのですが、まずは男性の男女共同参画に関する事業について、今年の2月に実施した認知症サポーター養成講座で講師をされた工藤委員、感想をお聞かせいただけますか。

【工藤委員】

今回はいつもの認知症サポーター養成講座をするだけでは何か違うかなという感じを受けたものですから、清水さんと相談しまして、介護についてもっとより具体的なアドバイスができればいいかなということで、具体例の中でちょっとしたワンポイントアドバイスのようなものを入れるようにしました。普段より事例は多かったのではないかと思います。あと、今まであちこちで養成講座の講師をさせていただいていますが、参加者のうち男性は本当に数名という形だったのが、今回はすごくたくさんの方に来ていただいたなという感じがあります。また、参加者の方たちは結構積極的だったのではないかなという印象があります。

【南委員長】

ご夫婦での参加もあったのですか。

【事務局(清水)】

複数ありました。

【工藤委員】

参加者のどなたがご夫婦なのかは分からなかったのですが、結構反応が良くて、積極的に聞かれている感じを受けました。

【南委員長】

ありがとうございました。次に、先月開催された男女共同参画連携講座ですが、参加された高田副委員長、いかがですか」

【高田副委員長】

シニアプラザはまなす学園の講座ということで、そこに所属している方たちに対して男性介護者になったらという話しがされたのですが、終わってからの質問の内容がかみ合っていなかったような感じがしました。年配の方たちなので、男女共同参画が分かっていないのかなという感じがしまして、あのように男女共同参画の話しを持っていくのには、少し時間がかかるのかなと思いました。意見はとて出るのですが、焦点が少しずれて定まらなかったかなという気持ちはしました。ですが、あのような場所に行かないと、こういうことは分からないですね。行ったことで、こういう問題もやはりあるのだなということが実感として分かりました。

あとパネル展へは私も行ってみました。意識調査でシールを貼るパネルがあったのですが、結構皆さん見ているのだなという感じがしました。そして展示物も字が大きくて、とても見やすく、本を借りに来る人が立ち止まって見たり、素通りしても見ている感じで、認知されてきているのかなという気はしました。

【南委員長】

私も見に行ったのですが、意識調査のシールがたくさん貼られていましたね。意見を聞くということは、見たということの感想を伝えるのに良いかなと思いました。男女共同参画はどうしても固い内容になりますが、図書館の入り口で開催されていたので、図書館にいらした方は見るのではないのでしょうか。その他、男性の男女共同参画に関する事業について質問等ございませんか。

それでは、女性に対するあらゆる暴力の根絶に関する事業について、家庭生活／女性相談で相談員をされている荒川委員、いかがですか。

【荒川委員】

DVですが、実際に殴られるとか蹴られるといった暴力は身体に残りますが、言葉の暴力は具体的に残らず流れていきます。しかも長い間受け続けて、それをDVだと気付いていない方が多い気がします。

【南委員長】

相談に来られる方は意識していらっしゃるのですか。

【荒川委員】

相談にいらした時は、はっきりと「それはDVですよ」とお伝えします。犯罪なのだとお伝えします。相談を受けていて、随分我慢している方が多分たくさんいらっしゃるだろうなという感覚はあります。言葉の暴力の問題は教育までいくのかなと思います。言葉づかいとか、特に若い人たちの言葉が荒れているなという感じはします。見たり聞いたりしていると、言葉の暴力がこれからどんどん増えていくのではないかなという感じがしています。そしてそれが悪いことだと気付かない。これは男の子だけではなくて、女の子にもあるのではと思います。

【南委員長】

相互に言い方が荒いということですね。

【荒川委員】

そして成長して結婚した後も続いて、長い間に傷になって、60代70代になって耐えられないという相談もあります。残された人生、それで良いのかしらと思うような相談もあります。暴力というのはいろいろな形がありますね。

【南委員長】

次にデートDV講座ですが、高田副委員長と設楽委員、感想をお聞かせください。

【高田副委員長】

この講座は今年で3年目ですね。今回の講師の高橋さんはアウェアで認定されたファシリテーターなのですが、一昨年に続き2回目の講師です。前回同様、今回も1年生が対象でした。今荒川委員がおっしゃっていた言葉の暴力だとか、DVは殴る蹴るだけではないというのをこの講座で教えています。今回もアンケートを実施し、清水さんにまとめてもらったものを法務局に報告していますが、一昨年に同じ藤女子大学1年生対象に行ったアンケート結果と比較すると、DVの認知度がとてもあがっていました。それに比べ、DVのことが分かっていないのは僕らの世代ですね。暴力といったら殴る蹴るのことだと思っている。例えば夫婦喧嘩とDVは違うということを、僕らの年代はほとんど分からないですね。

今僕らは人権擁護委員として、小学校ではいじめの問題、大学はデートDVの啓発を行っているのですが、DVとデートDVは何が違うのかといたら、片方は法律で守られていて、デートDVは守られていない。だけど相手が訴えたらこれは暴力だし刑事事件になりますよと言うと、学生は初めてそこで気付きます。DV防止法は夫婦間の暴力に関する法律です。でも恋人同士といった関係だけでは法律は何もしてくれない。だけど相手が不愉快な思いをして身体に傷がついたとかだったら、訴えたらそれは喧嘩ではなくて暴力であって、刑事事件として扱われる。それくらいすごいことであるのを認識していない。

北海道はデートDVの取り組みに関して先進的だと言われていて、その内容について北海道から本州に輸出しているような状況です。今年になって内閣府は、札幌人権擁護委員連合会が作ったDVDの内容を使ってDVDを作成しています。パワーポイントデータは全国で使われています。暴力は殴る蹴るだけではないんだよということをもっともっと知らせていかなければならないという感じがしています。

【設楽委員】

経年変化を見るということでは、一定程度継続した方が良いと思いました。ただ今回行ってみて感じたのは、対象が大学1年生ということで、講師の方が大分苦勞されていたようでした。講師の方が時間配分を間違えられて、90分のコマのところを60分で終わってしまって、後の30分をどうしようかという時に、学生に考えていることを発言するようにふられたのですが、多分学生は戸惑ったのではないかという感じはしました。普通の階段教室でやっていますから講義ですよ。学生に意見を言わせるのであれば、あらかじめそのような設定の教室にしておかないと難しいのかなと思いました。それでも今回は前向きな学生が多かったので、それなりには成立したのかなとは思いましたが。

あと、今回は対象が1つの学科だけですが、もっと違う機会でも継続して進めていった方が良いかなという感じがしました。

【南委員長】

女性に対するあらゆる暴力の根絶に関する事業について、ご意見ご質問等ございませんか。では次に、社会における女性の活躍に関する取り組みについて、これは質問ございませんか。審議会等委員の女性の登用率ですが、なぜ今年 30%にあがったのですか。

【事務局(清水)】

昨年の 11 月に男女共同参画行政推進会議という市長がトップの会議で女性の登用を推進するという決定をしまして、それに基づいて現在取り組んでいるのですが、各審議会所管課との具体的な取り組みを4月あたりから始めたので、1月から3月の間ではなかなか結果は出なかったのだと思います。4月から6月の間に審議会委員の女性登用が進んだということで、数値が上がったのだと思います。

【南委員長】

どんな取り組みをしているのですか。

【事務局(清水)】

審議会の委員選考に入る前に、各審議会を所管している課と事前協議をしまして、その時に女性の登用を進めてくださいという話しをし、また全審議会について、女性委員の登用割合の目標値を設定してもらいましたので、その実現に向けた協議を進めています。あと、先ほど女性人材リストを作成中であるとお伝えしましたが、リスト案が出来ていますので、それも参考にしながら審議会所管課と一緒に検討していったのが良かったのかと思います。

【南委員長】

では次に進んでよろしいでしょうか。次に第2次石狩市男女共同参画計画の進捗状況について、事務局は説明をお願いします。

【事務局(清水)】

今回お配りしました資料の(1)「第2次石狩市男女共同参画計画年次報告書(平成 23 年度)」をご覧ください。報告書の構成ですが3つに分かれていて、まず1ページ目からは、計画で設定した5つの基本目標を達成するための施策及び施策の方向に基づく各事業の進捗状況報告です。次に、17ページから審議会等委員の女性登用状況報告、最後に19ページには9つの成果指標に関する報告を掲載しています。

ではあらためて内容の報告をいたします。まず最初に各事業の進捗状況です。1ページ目をご覧ください。第2次計画の構成を活かし、また各事業の実施目的及び計画上での位置付けを分かりやすくすることを意図しまして、本文をなるべく残した作りをしています。各事業所管課から、各事業についての昨年度における実施の有無及び今年度以降の実施の見通しについて報告を受け、集約しています。ここで会議次第の4ページの一番下に掲載した表をご覧ください。実施事業数という量的な見方をすると、全事業数は154、うち昨年度の実施事業数は130と、約84%の事業が実施されました。基本目標毎で見ますと、一番実施割合が低いのは基本目標Ⅱで7割、後は8割から9割

で、基本目標Ⅴは全ての事業が実施されています。実施率が一番低い基本目標Ⅱ「あらゆる分野への男女共同参画の促進」で、実施されていない事業の所管課は全て協働推進・市民の声を聴く課ですが、当課は本計画推進の主管課であることから事業数も多いため、本年度を含め後4カ年中の計画的な事業実施に努めてまいります。なお、基本目標Ⅱにおける未実施事業は、施策の方向「市政における政策・方針決定過程への女性の参画促進」に基づく「人材の発掘及び人材リストの作成」や、施策の方向「地域社会での男女共同参画の促進」に基づく「ロールモデルの発掘、周知」などです。

次に審議会等委員の女性登用状況ですが、17 ページをご覧ください。先ほどの事業報告の中でもお伝えしましたが、一昨年の 25.7%から昨年度末時点では 24.2%と下がってしまっていますが、本調査報告集約時の6月末時点では 30.0%と大きく増加しています。しかし、次期改選目標値として各審議会所管課から報告された数値の合計は 37.9%と、本計画の成果目標値である 40%に満たないため、更なる対策の検討が必要と考えています。

最後に、成果指標の達成状況ですが、19 ページをご覧ください。最初にあがっている「『男女共同参画社会』という用語の周知度」ですが、平成 21 年度実績に比べ、昨年度は大きく下がっています。平成 21 年度と 23 年度では、調査手段を「男女平等に関する市民意識調査」から、市の総合計画の進捗状況の把握等を目的として毎年実施している「市民アンケート調査」に変更し、設問の文言変更も若干ありましたが、これが直接の要因であるかは不明です。今年度以降も「市民アンケート調査」で周知度を図っていく予定ですので、その結果を見てまた必要な検討をしていく予定です。次の「市役所における男性の育児休業取得者の人数」ですが、昨年度は取得した男性職員がいなかったため、累計人数は増えていません。なおこちらの指標は、市の特定事業主行動計画でも目標値として定めています。「市の審議会等委員に占める女性の割合」は先ほど説明したとおりです。次の「市役所の管理・監督職に占める女性の割合」はほぼ横ばいです。「職場・職業で男女平等と感じる人の割合」は、平成 26 年度に実施予定の「男女平等に関する市民意識調査」の中で調査する予定です。「『仕事と生活の調和』という用語の周知度」も、「『男女共同参画社会』という用語の周知度」同様、昨年度から市民アンケート調査で調べていますが、こちらは数値があがっています。「保育所の待機児童数」は横ばいです。なおこちらの指標は、市の次世代育成支援行動計画でも目標値として定めています。「配偶者暴力防止法の認知度」は、昨年初めて市民アンケート調査で調査した結果です。「乳がん検診受診率」は少し減少しています。なおこちらの指標は、市の健康づくり計画でも目標値として定めています。全体としては横ばいまたは減少している指標が目立ちますが、各事業の進捗状況の内容の精査や、未実施事業の実施等に努め、成果指標目標値の達成に向け、取り組んでまいります。

【南委員長】

それでは報告内容について、ご質問などがありましたらお受けします。よろしいですか。では協議に入りますが、この後の進め方について事務局は説明をお願いします。

【事務局(清水)】

今回もグループ協議を行っていただきます。グループ分けは、会議次第の2ページの名簿のお

名前の横にA、Bと記載しています。協議テーマは、本年度の重点的に取り組む視点である「男性の男女共同参画」と「女性に対するあらゆる暴力の根絶」です。前回は各グループでそれぞれ1つのテーマについて話し合っていたいただきましたが、今回は各グループともこの2つのテーマについてご協議いただきます。各テーマについて、それぞれ約30分程度ご協議ください。各グループには事務局職員が入り、進行と記録を行います。なお各グループ協議に入る際には、各テーマについて、事務局からまず情報提供を説明させていただきます。そしてグループ協議を7時45分を目途に終わらせていただきまして、その後で各グループの報告を受けて全体で協議していくという流れです。また各テーマをご協議いただく際には、会議次第の5ページにも記載しましたが、啓発対象者の年齢層や環境、立場など対象者の属性を絞ってから、取り組みの内容や手法といったものをご協議いただければと思います。なお、次回の委員会が皆様の任期中最後の会議となりますが、今回の協議内容を含む、これまでの3回の委員会の協議内容を事務局で総括しまして、皆様から次期男女共同参画推進委員会への申し送り事項案として作成します。この申し送り事項案を次回の委員会で協議し、決定していただきたいと考えています。

では、グループ協議1「男性の男女共同参画」に入りますが、まず最初に私から若干の情報提供をさせていただきます。まず前回の委員会の振り返りですが、「女性に対する暴力」についても共通の意見として、知ってもらうことの重要性や、伝えたいことが拒否感なく人々の心や頭の中に入っていくような工夫の必要性があがっていました。次に、男性の男女共同参画について協議された内容として、世代間の意識の違いについては教育との深い関わりについての言及がありました。取り組みの対象としては定年後の60代の男性に絞ったらどうかというご意見がありました。啓発手法は、夫婦単位が効果があるのではというご意見がありました。あとキーワードは「役割」ということで、男性の場合は「これをやってください」「あれをやってください」と具体的な内容を投げかけると参加していただき易くなるのではというご意見をいただきました。

ここからは、事前にお送りした資料(2)「男性の性別役割分担意識に関する資料」を、こちらのスクリーンに映します。まず最初のページでは、仕事や家事に対する性別役割分担意識が解消されてきていることが報告されています。次に、男性の約3割は仕事と育児の両立支援制度を利用する意向があるけれども、実際はできていない状況が報告されています。次のページでは、ピンクの線が示すように、共働き家庭が一般的になってきていることがわかります。その共働き家庭のパターンですが、男性はあいかわらず長時間労働、女性は短時間というのが多いパターンようです。次に男性の家事に携わる時間ですが、西欧諸国に比べると日本の男性は少ないことがわかります。では介護の部分ではどうかというと、介護を理由に転職・離職した人は男性・女性ともに増加傾向にあり、介護を担うのは女性だけではないという状況がこの資料でお分かりいただけるかと思います。次に「男性を待ち受ける危機」というタイトルがついていますが、女性は男性に経済力を求めるという性別役割分担意識が確認されており、最後に自殺の問題がとりあげられ、近年の自殺者のうち男性の増加が顕著であり、自殺者の増加は男性の問題と考えられていて、その原因としては経済問題や生活に関する問題で悩みが生じやすいと考えられているということです。

あと、本日お配りしている資料(3)についてもご説明しようと思ったのですが、時間がなくなってきました。

ましたので、主観が入るかもしれませんが私が特徴的だと感じた点について2、3ご報告します。
「男性は家族のために仕事をしなければならない」と考えている方ですが、男性は全体の 8 割弱、女性も全体の 8 割に上っています。女性の方が割合としては「男性が働くものだ」という意識が高くなっています。あと「仕事の業績を評価されたい、社会的に活躍したい」という意識がある方は、男性は全体の6割強、女性は 7 割強が夫にそのような期待を持っているという結果が出ているようです。

以上で資料説明を終わります。ではグループ協議に入ります。A グループは少し狭いですが部屋の角の辺りへ、B グループは荒川委員の後ろの辺りへ移動願います。よろしく願います。

----- (グループ協議:男性の男女共同参画) -----

【事務局(清水)】

次に、8月に開催するパネル展のパネル作成者であるNPO 法人男女平等参画推進みなどのホームページにアップされている映像をご覧ください。DV 被害者の方がDVの実情について話されています。

(映像を見る: http://gem-net.org/?page_id=144)

【事務局(清水)】

では協議に入ってください。

----- (グループ協議:女性に対するあらゆる暴力の根絶) -----

【南委員長】

お疲れさまでした。では全体協議に入ります。まずは「男性の男女共同参画」について、Aグループは報告をお願いします。

【事務局(岩本)】

まず社会の在り方として、個人の意識というよりは、現在の経済状況から共働きになっていて、状況に迫られて男性も女性も働くという現状が多く生まれているということが最初に話し合われました。

【南委員長】

本間委員からは、ご自分の子育ての時に、奥さんも働いていたけれど育児などは全部奥さんに押しつけたという悔いが残っているという話がありました。長時間労働などにより生活に追われて押しつけたという悔いがあるから、そういうことを解消するにはどうしたら良いのだろうかという話し合いがありましたね。

【事務局(林)】

共働きでないと今はなかなか生活できない。昔だったら専業主婦がいて性別役割分担がありまし

たが、今はそういった時代でないからこそお互いの意識が大切で、今の若い世代の人たちには、男性の家事に対する重要性について相当認識されてきている。ただ現実として、実際には労働時間が長いから、意識はあるけれどもといったジレンマが出てきたのではないかと思います。

【南委員長】

男女共同参画の視点をどう持つかというのが課題ですね。なかなか具体的な解決策は出てきませんが、市役所は話し合いの機会を設定するとか、そういう場の提供などについて考えていただけるといいと思います。でもなかなか人は来ないかもしれませんね。

【事務局(岩本)】

あと急に男性に家事のことを言っても、とっつきづらいところがあるので、男の子は小さい頃から料理を作ったりといった家事の下地があれば、大人になって共働きといった状況になった時でも、奥さんとバランスを取りながら家事をすることができるかもしれないという意見も出ていました。

【南委員長】

ではBグループをお願いします。

【事務局(清水)】

前段ではAグループと同じようなことが話され、男女共同参画として求められる男女の在り方は、社会情勢の影響を受けて変化しているということが話されました。そして男性の男女共同参画を進めるにあたっての幾つかの具体的な取り組み案があがったのですが、1つは職域に入るのはなかなか難しい中で、子どもを教える先生に対しての理解を深める方法として、今教育委員会で夏と冬に教員対象に実施しているセミナーで継続的にコマを設けたらどうかという意見がありました。2点目として、男女共同参画とは何かということについて男性も女性も良く分かっていないという状況を改善するためには気付きが大切なのですが、世代によって期待する気付きの在り方が違うという話が出まして、まず 60 代以上の方たちには、例えば「夫婦の家事講座」を行ったら、女性はこれまでの自分のやり方以外で知らなかった洗濯のコツなどをあらためて新鮮な気持ちで受けることができるし、男性もあらためて奥さんには聞けないことを初めて聞くことができ、夫婦共一緒に同じスタートラインから学ぶことができ良いのではないかという意見がありました。それから若い世代の気付きについては、若い世代は男女共同参画を既に生活の中で実践しているのだけれど、何が男女共同参画なのか伝わっていないから実践していることに気付いていないのではということで、実際に皆さんは日々男女共同参画を実践されていますよということを具体例を挙げてあらためて伝えていってどうかという意見が出ました。

最後に全体を通してですが、男女共同参画は雲の上の話でも内閣府だけがやっているものもなく、我々自身の家庭の中で行われていることであり、生活の中の話ですよということを皆さんに伝えていくのが大切だという意見がありました。

【南委員長】

これについて、ご意見ご質問はありますか。よろしいですか。では「女性に対する暴力の根絶」について、報告をお願いします。

【事務局(清水)】

ではBグループから報告します。まず、加害者は何故暴力を振るうのだろうか、加害者の心理が分からないという声が多くあがり、DVという問題をなくすためには、加害者をなくさなければ駄目なのではないかという意見が出ました。加害者に更生を促すのは大変困難であるなど、加害者について考えるのはとても難しい問題ではあるのですが、これは根源的というか、一番重要な問題であると話し合われました。

あと啓発の対象として、若い世代は当然重要でありこれからも推進していく必要がありますが、現在DVを受けている、主に 20 から 50 代といった世代の方たちに何か働きかけた方が良いのではないかと、実際に何か起きた時に、「ここに逃げたら良い」「相談窓口はここにある」といったことを伝えていくこともとても重要だという意見がありました。また、DVに関しての講座の開催について、仰々しく行くのではなく、気軽に行けるようなものを複数回いろいろなところで行なっていけば、気負わず参加できるし、啓発としては良い手法ではないかという意見が出ました。

【南委員長】

ではAグループお願いします。

【事務局(岩本)】

まずビデオを見た感想として、大変びっくりしたという声がありました。自分もそうですし周りの方たちも身近な体験としては縁遠いところにあるので、正直に言ってDVに関してどうしたら良いのかというポイントがなかなか掴みづらいというご意見がありました。ただ、喧嘩とDVは明らかに違うということ、暴力は絶対に良くないということを知ってもらい、その意識を皆が持つことが必要であるという話しになりました。DVというのは映像にもありましたが上下関係で相手を服従させ、相手を支配するということがある。例えば小さい時から相手を支配する傾向があるような場合、大人になってDVをやってしまうのではないかというようなご意見がありました。こういったことを防いでいくためには、現在市が行っているようにデートDV防止パンフレットを中高生に配るのも1つの方法ですし、子どものいじめがDVの根幹にあるということであれば、小学校を対象に、DVということではなく、いじめに視点を当てて取り組んでいくことも、最終的にはDVの予防に繋がるのではないかというご意見がありました。

あと、女性は相談機関等に相談したくてもなかなかできないという現状もあったり、またご主人の耳に届いてしまう可能性などを考えると仲間内にもなかなか相談できない状況に対し、最近ではインターネットが普及していて、面と向かって話すことは難しくてもインターネットで相談を受ける形があれば、こういった方々も話しやすくなるのではないかと、インターネットであれば若い方々も利用しているし相談し易いのではないかと、そしてまずは相談という領域に踏み込んでもらうことが大切ではないかということが話し合われました。

【南委員長】

ありがとうございました。これについてご質問、ご意見ありますか。

【高田副委員長】

今Aグループさんから、DVといじめの関連性を考えると、小学校でのいじめに対する取り組みに効果があるのではというご意見がありましたので、今石狩市で行っていることについて話させていただきます。まずCAPを進める団体が、主に3年生を対象にCAPプログラムを実施しているはずで

また私たち人権擁護委員は国から委嘱を受けて無償で人権教室を行っていて、やってほしいという学校があれば1年生から6年生まで授業をしています。先日は南線小学校に行ったのですが、大きな学校であれば3日かけて授業をしています。

【南委員長】

ありがとうございます。他によろしいですか。ではこれで協議を終わります。事務局は、今後の事業に反映できることがあればよろしくお願ひしたいと思ひます。

次回の会議の予定は 11 月ですね。その頃にはまた皆さんに出席のお願いがあると思ひますので、よろしくお願ひします。以上をもちまして、平成 24 年度第1回石狩市男女共同参画推進委員会を終了します。どうもありがとうございました。

平成 24 年 8 月 22 日議事録確定

石狩市男女共同参画推進委員会

委員長 南 榎 子